

統計研修講義計画書

研修課程	特別コース 実務に役立つ統計技術	講義科目	品質管理	講義時間	1コマ
講師	三神 均 (独) 統計センター統計情報・技術部統計技術研究課長				

※1コマ70分

講義のねらい

本講義においては、1990年代以降、欧米諸国を中心に積極的な取組のなされた「統計品質論」の内容とその勃興の背景について考察し、日本の統計に与えた影響について、「公的統計の整備に関する基本的な計画」とそれに基づき作成された「公的統計の品質保証に関するガイドライン」等により紹介し、「統計品質論」についての理解を深めることをねらいとする。

指導項目と内容

指導項目	内 容
1 近年の「統計品質論」の特徴	従来、統計の品質は、「統計データの誤差」という狭義の品質として捉えられていたが、近年の「統計品質論」では、①統計データ(プロダクト)の質、②統計作成過程(プロセス)の質、③統計制度(システム)の質のように、統計活動全体の質として捉えていることや、特に統計品質として「統計利用者のニーズ」を重視している点を理解させる。
2 「統計品質論」勃興の背景	「統計品質論」が勃興した背景として、 ① 旧ソ連崩壊に伴う中・東欧諸国のEU加盟 ② 1990年代後半のアジア通貨・経済危機 ③ 統計予算の削減 ④ 国民の協力意識の低下 ⑤ 情報公開とプライバシー意識の高まり ⑥ 事実証拠に基づく政策(evidenced-based policy making)の普及 などが考えられることを理解させる。
3 日本における「公的統計の品質保証」に関する取組	日本の統計に与えた影響については、「公的統計の整備に関する基本的な計画」と「公的統計の品質保証に関するガイドライン」等の内容を紹介し、日本における「統計品質論」の展開について理解させる

講義形態 指導方法	パワーポイントを用いた講義
受講に必要な 基礎知識等	統計調査に関する一般知識